京交山岳部報

No. 284　　'76　6月号

〔第1083回例会〕　木曾の山

大棚入山と辰ヶ峰　(T)

日　時　6月5日(土)～6日(日)　7.00 京都東インター集合

コース　京都－中津川－栃窪…大棚入山△2375m…番所(泊)－木曾福島－髭沢…辰ケ峰△1816.9m…中津川－京都

担当者　伊藤潤治(TEL463-4936)　地形図 1/5万「伊那」「木曾福島」

備　考　マイカーで行きますので、事前に連絡してください。

〔第1084回例会〕　家族ハイキング

鷲峰山(ジュウブセン)　(R)

日　時　6月13日(日)　9.00 天ケ瀬ダム駐車場集合

担当者　横大路　田中忠久(TEL601-9391)　申込み〆切　7日(月)

備　考　マイカーで行きます。お誘い合せの上、家族連れで参加して下さい。

〔第1085回例会〕

能郷白山　(T)

日　時　6月19日(土)　2.00 横大路車庫出発予定

コース　京都－大垣－根尾川－能郷谷…能郷白山△1617m

担当者　横大路　大西純一(TEL601-9391)　申込み〆切　15日(火)

〔第1086回例会〕　北山

フカンド山　(R)

日　時　6月27日(日)　7.00 三条京阪京都バス広河原ゆきのりば集合

コース　三条京阪－能見口…能見…フカンド谷…フカンド山…往路帰京

担当者　本局　宮後正樹(TEL 251)　地形図 1/5万「北小松」

備　考　坂井久光さん(五条)の500山目の記念登山です。多数参加して下さい。マイカーの方は直接能見口へ8.45集合

◦ 今 月 の 集 会 ◦

日　時　6月16日(水)　午後7時から　下 鴨 寮

議　題　1. 例会(№1081～1084)　部員動静　報告

2. 7月例会、集会(三哲)について

3. 夏山について

4. 連絡事項、その他

－ 当番　醍醐支部 －

リーダー会

6月4日(金)　石 田 宅

山岳雪語

遭難救助と報道

宮 後 正 樹

ことしのゴールデンウィークは生憎の悪天候に、山では死者 17人、行方不明4人という不名誉な遭難者を出してしまった。この中には元女性マナスル登山副隊長であったベテランまでも含まれ、特に京都の関係者としては朱雀高校OB山岳会員をめぐる二重遭難があった。これらの事故の大半は北アルプスに集中し、事故の主因も昨年のナダレ遭難に対し、今年は連日の雨つづきで緩んだ雪上の転・滑落事故が目立った。

朱雀OB会の場合は、京都府山岳連盟には加盟していないが、たまたまこのパーティのリーダー役？をつとめていた清水久雄君が加盟団体(ただし休会中)である皆子山岳会にも所属しており、さらに岳連内部に友人も多かった関係で正式の救助要請もあり急拠岳連隊の出動ともなったものである。

遭難パーティ4人の行動は、奥又白池にベースを置き前夜は前穂頂上でBVし、下山の途中下又白谷に迷い込んだもので、下降可能との判断のもとに下降を強行し雪の切れたナメ滑で残置ハーケンを利用して懸垂下降に移ったところ、セカンドの山本一男君がピンの手前で誤ってスリップしそのまゝナメ滝を滑り台のように滑って一度バウンドし、ダイビングの格好で雪渓のシュルンドに落ち込み行方不明となったものである。そこで先ず清水リーダーがシュルンドの中へ入り偵察したところ姿は見えないが、オーィという元気な声が返って来ており、再びメンバーの池野君も確認のためヘッドランプをつけて滝の落口まで降りて山本と呼んだところ、オーィという返事が2回もあったという。しかし急峻な滝の上部という地形から、とてもこれ以上自力での救出

は困難と協議の結果、救助隊の要請を決め清水が残留し、池野、深田が上高地の嘉門次小屋に救助を求めたのであった。

ところが5月5日付の新聞報道はどうであったろう。「前穂高から岳沢へ下山中の……山本一夫さん(24)が足を滑らせ約50m転落、下又白谷ナメリ滝の滝ツボに落ちた。仲間が滝ツボに降りて遺体を確認した。」というのである。「岳沢へ下山中…… 下又白谷ナメリ滝の滝ツボへ転落」という出鱈目のほか、「仲間が滝ツボに降りて遺体を確認した。」とはいくら地理不案内とは云え何という人命無視の報道だろう。たとえ死亡は確実視されたとしても少なくとも救助を求めてかけ下りて来た池野、深田両君はオーィという元気な声を頼りに早く助けたい一心で救助を求めているのである。誰が「遺体を確認した」と報道したのか、その責任は重大である。記者が単に想像でデッチあげの文章を書いたとすれば、いくらニュース性を強調しても誤った報道は人道上も許されるべきものではない。

長野県警では頂度その時、岳沢で2件の遭難事故があり救助隊はすべて出払っており、実のところ山本君の救出には出ようにも出られない状態で一度は独自での救出を逆に要請したのである。その時たまたま嘉門次小屋でアルバイトをしていた李　善文さん(24)が救助隊が出ないのなら「よし僕も行こう。何もできないが、1人でも多い方がよいから」といって友情出動してくれたというのである。ところがこの李さんも山本君の救出にシュルンドに入り、山本君の死亡確認をトランシーバーで伝えながら氷瀑をかぶって自らも力尽き、ようやく岳沢の1件を中止して出してくれた県警救助隊の到着を待たずして凍死(検死の結果)し尊い犠牲となられたのである。

翌5月6日付の報道はさらに腹立たしいものがある。「…たまたま単独で前穂高岳を目指して登山中、同日昼すぎ現場近くを通りかかり同会員の救助作業に協力していた…… 李　善文さんもロープを使って降りる途中、午後6時すぎ足をすべらせ約30m下の同じ滝つぼに転落間もなく死亡した。」と、いかにも本当らしく白々しいウソを報道しているのである。記者とて何もウソを書くつもりはなかったかと思う。むしろ誰がそんな報道を持たらしたかということである。誰も云っていないとすれば、それほどに新聞記事というものはアテにならないものなのである。

ところが、一度公に活字になった以上、事後の処理には例えそれが間違っていることがはっきりしていても、それを打ち消す確固たる当事者の証言、状況説明等がないかぎり取り消しにはさらに多くの時間がかゝるのである。誰にでも容易に現場に到達し、取材できないという山岳遭難そのものの性格上、報道というものはあくまでも正確で、相手の判断に任せるような曖昧な話し方をしないことが大切であり、常にリーダーなり責任者が統一してこれにあたり周囲の者の個人的な発言は厳に謹しむべきである。また遭難者の一身上に関することには特に慎重を期さなければならない。さらに救助は、当日の経過のあと李さんについては、李さんの友人関係者及び京都岳連隊によって無事遺体収容ができたが、すでに現地では山本君の収容すら放棄しているのである。

先ず遭難を起さない安全登山が第一ではあるが、次にいかに悪条件下であっても、あくまで自力で救助するという気概と友情が必要であり、救助隊を頼り過ぎてはならないということである。

今回の事故はまだ現地には、山本君が一人淋しく残されているのである。再度の救助要請が京都岳連に寄せられているようだが、あくまでも絶対安全の確認と限界を正しく判断のうえ、一日も早い収容と前後措置の解決を切望する次第である。

竜のつく山のこと

伊　藤　潤　治

あまり心にとめる事をしてなかったが、なぜか竜の文字の付いている山は多い。と思ってた。

5万分の1図で、京都東北部の竜王岳、京都西北部の竜ケ岳・竜王岳、京都西南部の竜王山・竜ケ尾山、等が拾える。多いと思い込んでいるのは、この環境に依るところがすくなくないだろう。だが、多いと思うていても、登りたい思いは起らなかったのである。

この辰年の元旦は、わが家の辰年生れのため竜ケ岳へ登った。これが妙なる縁という奴だろうか、急に竜の文字をいただく山が気になりだしたのである。

早速、竜の名山を日本山岳志から次の如く引出す。

陸前国	竜駒岳	2000尺	
	竜峰山	1696尺	
羽前国	竜　山	4875尺	
常陸国	竜神峰		
武蔵国	竜神山		
越後国	金竜山	4498尺	（金城山別称）
駿河国	竜爪山	3435尺	
遠江国	竜馬山	3000尺	
近江国	竜王岳	2987尺	
	竜王ケ平	2500尺	
	臥竜山	650尺	
山城国	竜王岳	2000尺	
大和国	竜門岳	3171尺	
	竜　岳	1657尺	（多武峰）
因幡国	日竜山	4983尺	（菅　山）
紀伊国	竜門山	2495尺	
	分竜山	2366尺	
備前国	竜天山	1650尺	
安芸国	狩竜山	4386尺	
	竜頭山	3234尺	
周防国	竜文山	2272尺	
長門国	竜王山	1907尺	
阿波国	竜王山	3123尺	
	大竜寺山		
土佐国	鐘竜森		
筑前国	竜王山		
筑後国	竜河内山		
日向国	竜房山	3752尺	
対馬国	雄竜良山	1825尺	
	雌竜良山	1686尺	

以上の他に、山日記の「日本の山」からも、下記の8山が拾えた。

竜王山	2872m	立山	竜王山	1900m	中野
五竜岳	2814m	大町	竜ケ峰	1855m	蓼科山
大洞飛竜山	2069m	三峰	辰ケ峰	1817m	木曾福島
竜喰山	2012m	三峰	竜門山	1687m	朝日岳

登りたい山が、見初めた其処にある山でのうて、何処にあるとも分らぬ見ず知らずの仲である山ばかり。これだけでは不充分と思いながらも随分広く、沢山の分布がうれしかった。

竜の字をつけた山は、前述の如く5万分の1地形図「京都西北部」「京都西南部」とも2山をそれぞれ擁するにぎやかさであるのに、5万分の1図を16枚でなる20万分の1地勢図に移ってみると、伊勢　竜頭山、宮津　竜ケ城、田辺　分竜山、鳥取　高竜寺山、姫路　竜ケ岳。

何れもタッター山しかない。どのような理由によるかそれは兎も角として、淋しくてしようがない。それにも増して拍子抜けしてしまうのは、岐阜20万地勢図である。岐阜20万といえば山の中の山どころ奥美濃が座る図幅であるのに、悲しいかな竜の山名が見当らない。

しかし、登ろう登りたい衝動の裡にやっと竜興寺山に出会えた。けれどこれが286m標高点の山。甚だ竜興寺山には申し訳ないのだが、さっぱり気合が入らないのである。岐阜2号「八幡図」に△828m峰とその山麓に竜牙なる里を見つけた。もしや竜牙山とは申さぬかと思い、問い合せたが、小舟山と言う由にて、またも気を落とす。

今年は竜の山を、毎月1山づつ登る予定を立て、目下の成果は、元旦　竜ケ岳 921m（京都及大阪）、2月　竜王山 826m（名古屋）、3月　竜ケ城 646m（宮津）、竜王山 586m（和歌山）、4月　竜頭山 676m（伊勢）、高竜寺岳 697m（鳥取）で、　5月は徳島・高梁で各1山づつ、6月は木本・田辺で各1山づつのつもりである。

これでも気がかりはある。竜の山なればどこの、どんな山でも可ではない。20万地勢図が1山の単位であり、登る方向は必ず「京都及大阪」20万図より、上下、左右あるいは斜めに登り広めることが定である。たとえば、行くついで来たついでに竜門山（「村上」20万の朝日岳図）とか、竜房山（「延岡」20万の尾鈴山図）を登るのは反則で、1図幅でも飛ぶのはいけないのである。

さしあたりの問題は、真隣りの「姫路」20万にある1山きりと思える竜ケ岳 817m（但馬竹田図）は、既に1974年4月6日　登頂をすましている。だから「姫路」20万では新しく登る山をこれから物色しなければならないが、どうぞ気に入る佳い山が見つけられるよう、竜を念じている昨日、今日なのである。どう、いつ気が変るか分らないけれど、今年だけ竜の山を登ろうと考えてやり始めたが、何やら竜が憑いたのかも知れない。年があらたまってもまだ登りつづけているような予感がしてならない。　　1976年4月25日

還暦お祝い登山

竜　ケ　岳

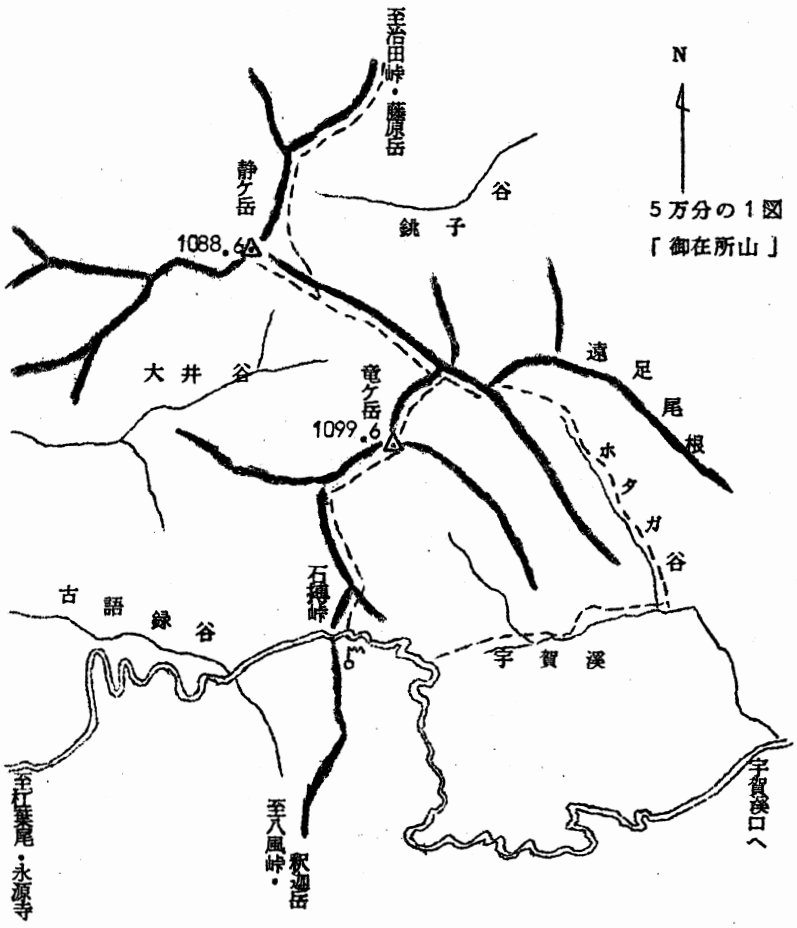
宮　後　正　樹

ほんけがえり、それは干支（えと）が一回りして生まれた年の干支に再び返る年、つまり満60歳の寿を祝う還暦である。今年は、牧　定夫、田中定勝の両名誉部員が共にめでたく還暦を迎えられ、干支に因んだ鈴鹿の名峰竜ケ岳がお祝い登山に選ばれた。

ファミリーを加えて山村、山下、田中、武田、大槻、三橋、上島、宮後と８台の車で、名神京都東インターを出発する。八日市から愛知川沿いに永源寺を経て近江と伊勢を鈴鹿越えで結ぶ花崗岩砂の白い林道を快適に登る。やがて目指す竜ケ岳がどっしりとした姿を見せてくるともう石榑峠である。

大人２０人、子供９人の大部隊である。電波塔の立つ南尾根を背にいきなり急な登りである。崩れやすい花崗岩の岩稜を子供たちの手を引きながら登るとショウジョウバカマが足元を飾る灌木帯の急登が続き、途中重ね岩と呼ばれる眺めのよい岩塊のテラスを過ぎて一汗かく頃、もう広い山頂部の南端に乗ることができる。

快晴に恵まれて一面に茂るイブキザサが波うって光っている。その間の一条の道を辿ると広い丸い山頂に到着する。何と１００人近い先着パーティが思い思いに座り込んで目下昼食の真最中である。頭部の欠けた二等三角点を囲んで登頂と還暦お祝いの２９人の萬歳三唱、京交山岳部の心意気を示す。続いて近藤親分の発声でカンパイ、還暦お祝いの記念品赤いチョッキが贈呈されて赤チョッキの両氏を囲んで記念撮影、サイン等をしてセレモニーを終わる。



パノラミックな大展望を楽しんでの昼食をとり、食後の散歩にと静ケ岳へ向う。藤原岳、御池岳の平らかな山容を正面によく刈られた笹の海を下り宇賀渓への遠足尾根道を右に分けて主稜線の踏分けに入ると、急に道は悪くなりブッシュやヌケがあらわれる。左側大井谷の源頭部の平たんな林間を過ぎ治田峠、藤原岳への指導標のある縦走路からさらに西へ真直ぐに灌木の稜線を登ると1088.6m 静ケ岳、文字どおり静かなきれいな三等三

角点が迎えてくれた。

近藤、中村、牧、田中の先輩を含め竜ケ岳の残留部隊に届けと14人の萬歳を三唱する。竜ケ岳からは往復いずれも1時間余りである。静ケ岳の帰路、逆光にイブキザサが波うつ北面からの竜ケ岳は実に壮大で優美な眺めであった。ヤッホーを三角点にかけ、石搏峠に無事下山集結して還暦お祝いの竜ケ岳登山の幕を閉じた。末尾になりましたが両氏のご厚志に御礼申し上げます。

〔コースタイム〕

4月25日(日)	8.00 京都東インター発		15.10～15.20	竜ケ岳
	10.10～10.30	石搏峠	16.10～16.30	石搏峠
	11.45～12.45	竜ケ岳	18.00	京都
	14.00～14.10	静ケ岳		

〔参　加　者〕

牧　定夫、田中定勝、近藤　薫、中村維源、山村敏郎、河村　清、山下周道、上原昭二、楠とし子、壬生外子、上島和彦、武田喜久郎ほか3、田中忠久ほか3、大槻雅弘ほか3、三橋　勉ほか4、宮後正樹　　計　29人

〔記念品賛同者〕

本　局　　渡辺智生、木下嘉造、岡田茂久、若山裕孝
九　条　　沢井佳三、鷲見敏一
梅　津　　吉田　武、徳野　治
五　条　　坂井久光
醍　醐　　北川　晃、守山寿彦
横大路　　岡本義弘、山田精一　　計　13人

還暦登山ありがとうございました

牧　　定　夫

山岳部の皆様の御厚意により、第1077回例会に還暦登山 鈴鹿龍ケ岳を選んでいただき無上の光栄に感激いたしております。退職記念登山鈴鹿龍王山と共に、私にとっては忘れることのできない鈴鹿の山となりました。

当日は早朝にもかゝわりませず、ママさん、坊や嬢ちゃん、ベビーちゃんと多数の方々に参加していただき大変嬉しく、有難く感謝いたしております。また龍ケ岳の山頂に於ては、お祝のお言葉をいただき、そのうえ結構なる記念品まで頂戴いたしまして厚くあつく御礼申し上げます。私もお蔭様にここ4年余、快調に楽しく日々を送ることができ得るのも常に山歩きの賜と思い朝に夕に感謝しておる次第です。今後も脚が弱らないよう遊ばせないよう努め「人生70古来稀なり」に向って頑張りたいと考えておりますので、今後共よろしく御指導御鞭撻下さるようお願い

申し上げます。山岳部の皆々様本当にありがとうございました。今後共によろしく、誌上を借りてお礼申し上げます。

伊藤潤治様へお礼の辞

牧　　定　夫

その節は大変お世話になり、ありがとうございました。お多忙の中、私の還暦記念山行として「龍頭山（龍燈大権現）」登山をお誘いいただき、終日楽しい山歩きができて大変嬉しく思っております。登行中は山についての色々なお話を聞き、私には良い勉強になり今後の山行に大いに生かして行きたいと考えております。何よりもお元気で山歩きの上手さには恐縮いたしました。奥美濃の山々にて何回か小さな瓶の中に治められた名刺を拝見させていただきます。5月上旬の花房山にても拝見させていただきました。藪漕ぎにてとんで出た山頂にて今日はどこの何方に逢えるか、三角点と共に楽しみの一つとして期待しております。私も還暦とは云え山歩きは1年生、山歩きのコツを卒業するまで先は長いですが頑張る気持です。今後共によろしく御指導を願います。誌上を借りて厚くお礼申し上げます。

愛宕山と大文字山

畑　　照　人

4月29日　雨　　第10回　　愛宕山

ゴールデンウィークの初日。可哀そうに雨となる。清滝の朱の橋と新緑が雨に洗われてとても目にさわやか。それに河では河鹿が鳴いている。大自然の素晴らしいこと。来てよかったね。実はあんまりよく降るので、やめて帰ろうかと思ったが、雨に負けて山行き中止したとなると切角張切って用意したのに、京交山岳部のOB面目丸つぶれだ。何が何でも登るんだと決行したのである。地方からの村の代参という資格でお参りする人が多かった。地元の山岳部の人らしい若者は、建物の中で飯盒炊さんしていた。晴天ならば広場が一杯になっていたであろうに。月輪寺の石楠花が満開であった。

釈迦堂…本道…FT…月輪寺…清滝－バスで帰る

気温　10°（神社前）　　上り　140分，下り　100分

5月5日　晴　　第4回　　大文字山

連休の最終日、子供の日とあって何時も静かな山も、グループ登山や家族づれの人々で大いに賑やかなことである。百万遍前から歩く。例の如く三角点から池の谷地蔵へ詣る。今、八重咲の桜が満開で、それに節句の鯉上りが空を泳いで、まるで一幅の絵の様な景色である。地蔵さんの

お参り客も大入りの繁昌であった。元のコースで下山するが、途中で地学研究の学校のグループ数組にあった。この山は昔から地学の勉強に利用される事が多いのである。銀閣寺周辺も連休の人出で混雑していた。

5月10日　晴　　第11回　　愛宕山

沖縄から北海道まで高気圧が張り出して晴天である。気温も27°位になり、夏型の天気である。今日は自転車で行く。一番最短距離までは、空也滝の入口と決定。そこで朝食をとる。今はつつじと藤の花の満開である。鶯は道のすぐそばで、よい声で鳴いている。人が近づいても逃げもせずよい声で私を迎えているようだ。

神社参拝。気温は16°もあった。往復同じコースで帰る。

西大路五条 9.00 ー空也滝入口 10.25 ～ 10.45…月輪寺 11.35…　12.30…空也滝入口 13.50 ー自宅 15.00 着

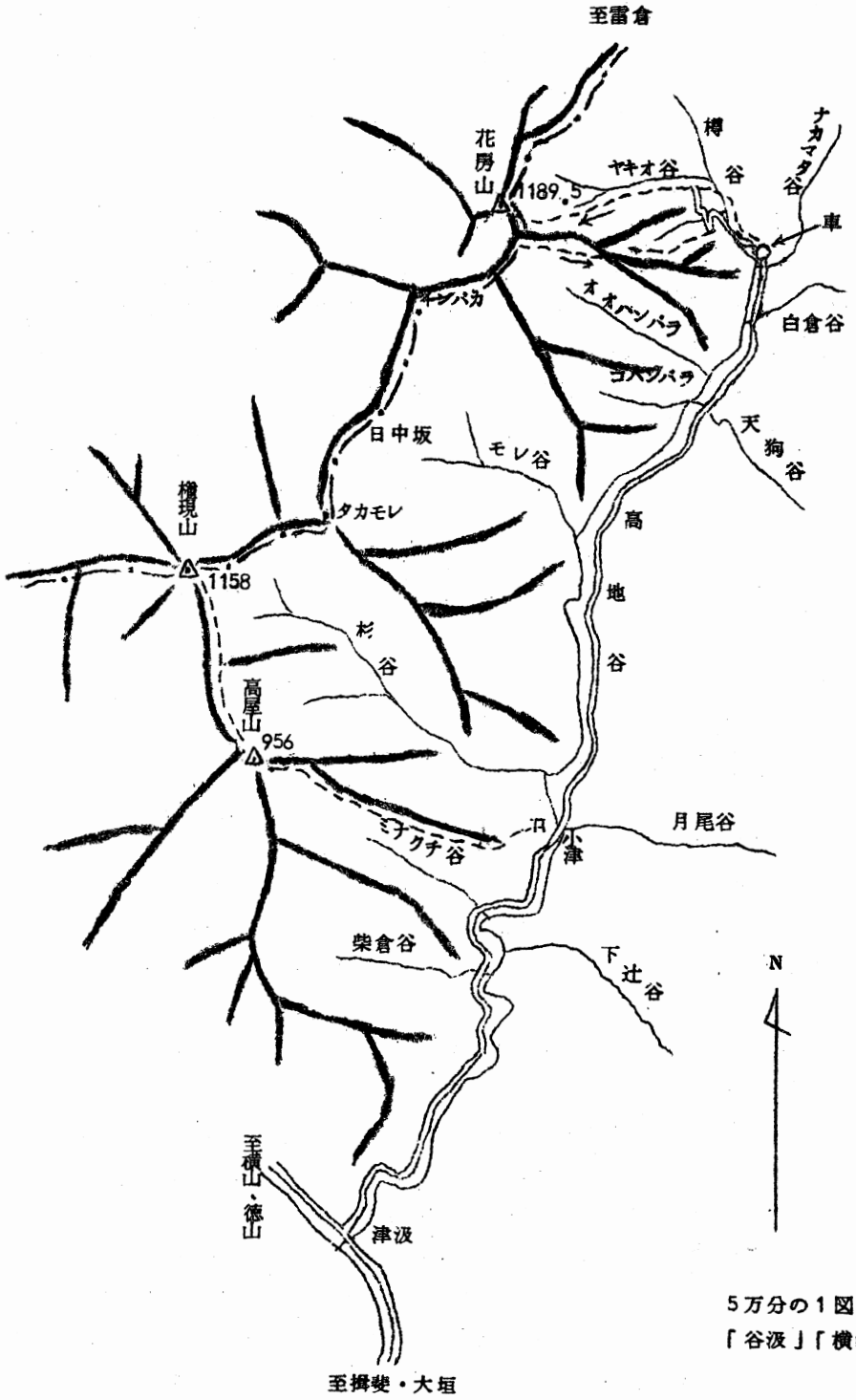
花房山と小津権現山

宮　後　正　樹

登り残しの山というのは、実に気になるものである。今年の奥美濃山行のスタートは是非、去年の登り残しの山を片づけてからと花房山を加えての小津入りとなった。メンバーは去年の武田君に牧先輩の3人である。

花房は往復10時間は必要だろうと意気込んで、早朝5時40分に橋本屋を出発する。高地谷林道はナカマタ谷を跨ぎ、ダル谷をさらに奥へと連っているが、前日の偵察で流水が林道をかぶっており、水量も多いので手前のナカマタ谷出合に車を置くことにし、靴を脱いで素足で渡る。川巾5m余りだが水深ヒザ辺りまでの冷たい水に、頭の先まで痛い。靴をはいて林道をさらにつめ、ようやく感覚が戻る。

林道は採石用の古いクレーン車の置き去りにされた次のヨモギ谷辺りから上へ上っているが、崩れているので谷通しに進むことにする。直ぐに落差5m余り、横に広い滝があらわれ、右岸を攀ると上は岩の重なる連瀑となっており、上から先ほどの古い林道が谷に迫っていた。続いて大きな岩が谷の真中にはさまったような滝となり、これも右岸を登る。古い炭焼釜が左岸にあり、なおも溯ると10m余りの大きな滝があらわれる。左岸は急壁となっており、右岸を捲くか真中の草つきを利用するかである。武田君をトップに、牧、小生のオーダーで真中の草つきを登る。小さなスタンスにやゝ緊張する。登り切ると二段の滝となりさらに上部は連瀑となって谷が3本に分れている。左岸沿いに登ってしまったので、左の谷へ木につかまりながら下る。右の谷は滝となっており、ここにも炭焼釜の跡があり、真中の谷にはまだ残雪が谷を埋めていた。土をかぶった汚ない雪渓を踏んで真中の谷をつめる。2つ目の10mほどの滝で左の小谷へ、エンレイソ


至雷倉
花房山
1189.5
樽谷
ナカマタ谷
ヤキオ谷
車
オオバンバラ
白倉谷
コバンバラ
天狗谷
日中坂
モレ谷
タカモレ
檜現山
1158
高地谷
杉谷
高屋山
956
ミナクチ谷
月尾谷
小津
柴倉谷
下辻谷
N
至横山・徳山
津汲
至揖斐・大垣

5万分の1図
「谷汲」「横山」

ウが雪解けに顔を出し、珍らしい菊花の出た菊花石の原石を見ながらようやく水も涸れ急峻になった小谷をつめる。

ググッググッと羽音がしたと思ったらキジの雌が急に飛び立ってびっくりする。稜線も近くなり、雪解けの岩場がずっと突き上げているが逆層で足場も悪いので、なお30mほどの急な雪渓にステップを切ってツメる。雪渓上部は急なガレ場となり小灌木を頼りに強引に登る。どうやら地図上のガレ記号の端に入り込んでいるようだ。見事なイワカガミの群落に慰められながら稜線に登り切る。コブシの白い花とショウジョウバカマのピンクが迎えてくれた。

木の間越しに目指す花房の山頂は、もう30分ほどの登りである。ガスがかかって来て頂上が見え隠れする。変形コの字型になったやゝこしい地形に目印しのため、牧さん持参の赤ヒモをつけながら進む。小さなコルをまたいで最後のヤブの急登を漕ぎ山頂に飛び出る。9時45分、1189.5m三等三角点の花房山登頂である。萬歳三唱、ワンカップ大関でカンパイする。

「1962.9.23 pm12:31 権現山から縦走し来る」伊藤潤治氏の名刺に「やっと来ました 大沢 泰」「感無量云うことなし 北村洋将」14年前のサインが小瓶の中にあった。そのほか 1967.7.16 pm0:25 大垣山岳協会の藤井氏ほか5人、日本山岳会簡井 稔氏の名前もありうれしい対面だった。

にぬき玉子を食べて往路登達尾根に戻る。コブシが清楚な淡い香りをただよわせていた。図上偵察により、下りは東へタル谷に下りている尾根にルートをとることにし、ブッシュを分ける。約40分、200mも下ったろうか。雷倉からタンボ、西台を望める標高900m辺りの尾根上で休憩、昼食とする。コブシ、ツツジが咲き競い足元はイワカガミが満開の陽だまりの楽園でゆっくりとウグイス、シジュウガラのコーラスを聞きながら語らいのうちに摂る昼食は実に楽しかった。花房から雷へのガスのかかっていたヤセ尾根がすっかり晴れ上って全容を現わし雷倉も青空にくっきりと浮かんでいた。

さらに約1時間、コブシの満開の中を一目散にヤブ漕ぎで下り、立枯れのある小テラスに着く。ふり返ると途中から予定していた尾根を外れ一つ南の尾根に入り込んでいる。地図を調べてみると、案外この方が車の地点には近いかも知れない。しかし最後はいずれも急傾斜でタル谷に切れ込んでいるので滝だけには気をつけねばならない。新緑あふれる急な斜面を落石、滑落に注意しながら木につかまりトラバースぎみに高度を下げる。さらに40分ほどで無事谷筋に下りることが出来た。谷を下ると真ぐ下が古いクレーン車のある崩れた林道出合いであった。

晴天とパートナーに恵まれ、さらに昨夜の橋本屋特製焼肉のスタミナ料理のおかげで登り3時間45分、下り3時間の快ピッチで花房山を手中に納めることができた。意気揚々引きあげ渡渉地点に戻ると橋本屋の高橋さんら一行が家族づれで、釣り山菜とりにやって来ておられ、我々の帰りを待ち構えていたように早速アマゴの骨酒という珍酒を飲め飲めと奨めていただく。香ばしい薫りと燗酒のうまさは正に生まれて初めての美味さであった。牧さんなど三パイ汁ならぬ三パイ酒でご気嫌だった。ワラビと煮込んだアマゴを頭から2匹も平らげて思い出深い花房行となった。これに気を良くした武田君は宿へ帰って勇躍竿を持って出かけて行ったが釣果はゼロ、夕食

のアマゴ料理に再び舌づつみを打ったのであった。

〔コースタイム〕

5月1日(土)

15.00　京都発

17.15　小津橋本屋着

　　タル谷偵察

5月2日(日)

5.40　橋本屋発

6.00　シラクラ谷出合

　　車デポ

6.15　ヨモギ谷

6.30　5mの滝

7.17～7.25　10m滝

7.37　真中の谷へ

8.00　左の谷へ

9.20　稜　上

9.35　コ　ル

9.45～10.20　花房山頂

10.35　登達尾根

10.45　尾根へ下る

11.25～12.20昼食

13.10～15　立枯・偵察

14.00　ヨモギ谷

14.40～15.00

　　タル谷渡渉地点

15.30　橋本屋

翌日は宿題の小津権現さんに登らせてもらおうと張切って5時に起床したが、連休利用で高橋さんの親せきからも大勢が遊びに来ておられ、子供達だけでも1ダース以上が夕べも遅くまで騒いでいたので奥さんもすっかり朝寝坊され、弁当、朝食が遅れて出発は6時40分になる。

昨日の好天も今日は崩れて重い雲が800m辺りまで垂れこめている。新緑鮮やかな雑木林の中の立派な道はどんどん高度を増して行く。1時間半ほどで権現山無線ロボット雨量計のある観測所につく。岐阜気象台が48年11月に建設したコンクリート造りの観測所である。かってはこの上の高屋山三角点の地点にあったが、点検や管理上ここへ移設されたものだろう。ガスが下りて来て霧雨が冷たい。

良い道もここまでで、高屋山までは観測所の左上から直登に近い踏あとを登ることになる。それでもヤブ漕ぎがないだけ大助かりである。20分余りで木造の旧ロボット小屋に着く。956m三等三角点は左側の根曲り竹の中にひっそりと静まりかえっていた。大関をお供えし、先ずは萬歳三唱、カンパイをしていよいよ権現さんまでのヤブ漕ぎが始まる。最初は根曲り竹の密生する平らかなダブル尾根で赤ヒモの標識とナタ目を入れながら進む。ガスで見透しが利かないので帰途には気をつけねばならない。

権現への稜線に乗ると、幸いケモノ道と併行した踏あとがあり助かる。乳色のガスに小雨まじりの風が杉谷側から吹き上げてくるヤセ尾根は、コブシとツツジで飾られていた。今日もイワカガミの群落が迎えてくれ、ツガとシャクナゲで前進をはばまれるピークに着く。前方を見ると何も見えない。スッポリと切れ落ちて頂上のようにも見える。しかしいくら探しても三角点は見当らない。やむなく左下へ枝折りや踏あとを辿ってルートを偵察したが、とにかくガスでサッパリ地形がわからない。再度ピークに戻って強引にシャクナゲのジャングルに挑戦、乗り越えるとウソのように踏あとが先へと続き、先ほどまでの錯覚が悪夢のようである。30分余りのロスにピッチが上り、三橋君の記録にもあった左下への捲道も見つかっていよいよピンクに咲き誇るシャクナゲの見事な群生の中を急登する。小雨に濡れた冷たい笹を分けて11時55分二等三角点の

小津権現山に登ることができた。

笹を払った広い伐り開きの山頂は、案外ゴミが多くガックリさせられる。苦労させられた登頂ほど萬歳の声に力が入るものだ。大関でカンパイ。寒いのでにぎり飯はノドを通らない。牧さんのパンとチーズをもらって小憩。今冬'76．3．7花房より、とある大垣山岳協会（新潟大学山の会）宇佐美博康氏ほか同行高橋二三夫、山口教博氏のサインが残されていた。

シャクナゲの下りでは、固いツボミを土産に失敬して捲道を登って1時間で迷いのピークに戻り、さらにヤセ尾根を通過して高屋山へと急ぐ。案の定、ダブル尾根ではリングワンデルングをやりかけたが、赤ヒモ、ナタ目に助けられて旧ロボット小屋にかけ込むように飛び込む。小屋の中は風が避けられ、冷えた身体にテルモスの温かいお茶が有難い。カリントウ、チョコレートで腹を納めて橋本屋に戻る。びっしょりと濡れた身体に風呂が何よりのご馳走だったが、さらにホルモンを焼いていただきキシメンうどんで生きかえる思いであった。

あれから一週間、今玄関のテーブルの上には固かったシャクナゲのツボミが大きなピンクの花をパッと開いて、シャクナゲピークの苦しさを慰めてくれているようである。

〔コースタイム〕

5月3日（祭）	10.15～10.45 シャクナゲP	14.10～14.35 高屋山
6.40 橋本屋発	11.00 まき道	14.45 権現山雨量計
8.15～8.22 権現山雨量計	11.55～12.15 権現山	15.35～17.10 橋本屋
8.43～9.00 旧ロボット小屋	12.50 まき道	19.00 帰京
高屋山△	13.15 シャクナゲのP	
9.55 ヤセ尾根	13.20 ヤセ尾根	

九州・山陽・山陰の山旅

（久住山・万年山・阿佐山・大江高山）

五条　翠　峰

5月になって、1泊で四国の第2位の一等三角点の高峰、石槌山の二の森（1929m）を石槌山から縦走して登り、堂ケ森（1689m）に下って下山途中、霧にまかれ南の坂瀬谷へ下り、渋草の旅館で一泊して帰ったが、九州の山へも先鞭がつけたくなり、最高峰の一等三角点久住山へ登る計画をたてた。

5月6日夜行列車「慧星」に乗り、翌朝7日別府で下車。亀ノ井バスの久住行に乗る。バスは坂道をうねって登り、別府湾を眼下に見おろすようになると右手に鶴見岳が聳えたって見える。ついで一等三角点の由布岳が偉容を現す。此の辺の山はみな火山で樹林のない笹原か小灌木の山で、谷間や裾野は未利用の荒原である。坂を下ると由布院盆地でかなりな町である。ここから又山間部を走るが、小田野池・山下池の湖畔を走ったが、全く自然そのままで、関西なら大資本が

何か施設を作って金儲けの種にするところだが、荒地がそのまゝであるのが、何だか勿体ない様な気がする。飯田高原に入ると九重山塊が見えてくるが、全く大陸的な広大な平原を見ると、日本ばなれがしてくる。バスの乗客は終点の牧の戸峠までに私1人だけとなった。運転手は植木好きで、ボーリングして湯を掘り当てて熱帯植物を作ったりしているとのこと。また山が好きで、休みには家族連れで附近の山に行くそうだ。

久住山は1787mで、九洲一の高峰。峠から良い登山道が出来ており、登るとうす色の春リンドウが道端に沢山咲いていたが、ツツヂはまだつぼみがかたかった。5月末から6月にかけて全山を霧島ツツヂの群落がケンを競うそうである。四国の石槌山で見たアケボノツツヂの美しさも忘れ得ぬ思出であるが、さぞ見事なものであろう。ゆっくり登って山上でラーメンを作って昼食。途中に小屋があり、頂上からの展望は絶佳であった。下山は御池と名付て火口湖を廻って稜線を越し、谷を下って法華院との分れに出てスガモリ峠を越し、硫黄鉱山に出て林道をたどって長者原に下った。バスを待ち、森へ行き乗り換えて宝泉寺温泉に行き一泊。無色透明の良泉で、疲れをいやして就寝。

翌8日、附近の一等三角点万年山(1140m)を登りに出発。この山は、点標名を羽子山と云い、地元の人もハネ山と呼んでいる。この山も火山で、前述の由布山や久住山と成因が違い、形状も前者が円錐型のコニーデ型であるに対し、山上が高原状で熔岩台地と呼ばれ、メーサーと分類され、この小型はビュートと云われる。附近の大岩扇山や宝山もこれに属する火山である。東や南に断崖を見せているが、山頂は広大で牧場となり、牛が無心に草をはんでいた。支尾根に登路を見付けて稜線に出ると牧柵があり、色鮮やかな濃紺の春リンドウが群がり咲いていた。山頂から南に涌蓋山が美しくコニーデ型の山容を見せて聳え、久住山は霞にかすんで見えた。北に森駅に下山路があり標識もあった。急坂を下るとグリーン一色の牧草の茂った牧場で、林道が延びていた。

林道を下ると唐杉に出て塚脇を経て森へ。こゝで昼食を食べ、中津行の大分バスに乗り、天下の名勝耶馬溪を車窓より鑑賞。石楠花が美しく、切立った大岩が両岸に屹立しており南画的風景を呈しており、漢学者の山陽の気に入ったのであろう。下流でこれまた天下に恩鑾の彼方で有名な青の洞門をくぐって中津駅に出て汽車で小倉に行き、新幹線ひかり号で広島へ。広島で私が主宰している一等三角点研究会の会員の中田君に電話して彼の家を訪れ再度世話になり、積る話に時が経ち就寝。

翌朝5時起床。車で国道をひた走り加計町を経て細見に出て、ここで県道に入り坂を越えて大暮川沿いに走り、最奥の部落深山の少し先で阿佐山のすぐ南のコルに突上げている谷との出合で駐車。谷沿いの小道をたどる。砂防ダムを越えてどんどん上り、コルに着くも縦走路はなく、一面の伐採の斜面を山頂に向って境界を歩く。途中藪に突入してブナ林の急坂を登ると道に出て頂上へ。ヤグラが残っており、2人で登って展望を楽しむ。眼下に大朝の町が見え、西に天狗石山の電波塔がすぐ見える。西に大佐山や臥竜山が、南に冠山等なつかしい山々が見える。コーヒーを沸かして一服して、道をつたって下山。

道は伐採地を真西にぐんぐん下り、林道に飛出した。終点より少し手前であった。林道を下って駐車地に行き、車で天狗石山へ登り、帰路天狗石山荘に立寄り、管理人佐々木さんと会い、話をして出発。天狗石山の方が、展望は北の島根県側がすぐ見えてよかった。細見で下車して中田君と別れ、江津行の広電バスに乗る。江津から汽車で太田に行き、バスで南谷鉱泉に下車。車道を歩いて坂下旅館へ行き一泊。こゝは一風変った旅館で、看板がない。湯は長い廊下の階段を下って浴場へ。夕食は仲々料理が上手でうまかった。泉質は重曹泉で、胃腸病、神経症等に効くとか。

翌10日、水筒にお茶をつめてもらい、早めに朝食をすませて出発。鉱泉口から山中橋へバス道を通り、橋のスソから山手に向い伊勢階の部落を目指す。大江高山は支峰を東に2つ従えてそそり立っている。この山も大山火山帯に属する塊状火山で、死火山である。田代を掻いている人や田植をする人々の働く山田を通って上って行くと、太田市観光課の問合せで紹介された倉の段さんに途中あい、登路を詳しく聞いた。送って来た略図は不完全で、林道終点の岡田さんの家の庭を通って、裏から山道を通って主峰と次峰の峠（矢滝に通ずる）に出ると、稜線に沿って切り開きがあり、それを伝えばよいとのこと。祖式から上ってくる林道に出て、最終点の岡田宅の犬小屋と主屋の間を抜けると道に出て小谷を渡り、次の谷ぞいに上ると矢滝に越す峠に出て、荒れた急峻な切開きをどんどん登って頂上にでた。点標はめずらしく御影石でない黒みがかった石でできており、木に登ると三瓶山がよく見え、越し方の山々が重畳として見えた。一休みして下山して倉の段さんに会って礼をのべると、思ったより早かったのかびっくりしていた。別れて祖式に行き、喫茶店で一服して大森へ向い、途中ヒッチして大森銀山の代官所やお宮の夫婦松（赤松と黒松が根もとから1本になった珍木）を見て昼食をとり、バスで太田に出て特急「松風」で帰京した。

〔コースタイム〕

5／6　21.47 新大阪　　5／7　8.15～37 別府－11.00～05 牧ノ戸峠…11.55～12.30 扇の峰 昼食…12.55～13.00 山小屋…13.25～35 △久住山…14.40 法華院分岐…14.45～50 スガモリ峠…15.50～16.56 長者原－17.58～18.15 豊後森駅－19.00 宝泉寺温泉

5／8　7.45 出発…9.25～30 支尾根…10.30 牧柵…10.51～11.00 △万年山…11.35～45 妙見宮…12.13 大隅分岐…13.20～14.18 森駅－16.22～52 中津駅－17.37～57 小倉－19.10 広島

5／9　5.00 出発－7.30 深山…8.10～16 コル…9.10～10.00 △阿佐山…10.28 林道…10.50～55 深山…11.18 登山口－11.25～57 天狗石山△－12.25～40 天狗石山荘 13.05～14.06 細見－15.10～14 浜田－16.00～19 江津－17.21～29 太田－18.45 南山鉱泉口－18.30 坂下旅館

5／10　7.37 出発…8.00 山中橋…8.40 伊勢階…9.00～05 峠…9.42～55 △大江高山 808m…10.15 峠…10.32～55 伊勢階－11.17 祖式－12.15～13.05 大森－13.35～58 太田－21.09～30 大阪－22.30 京都

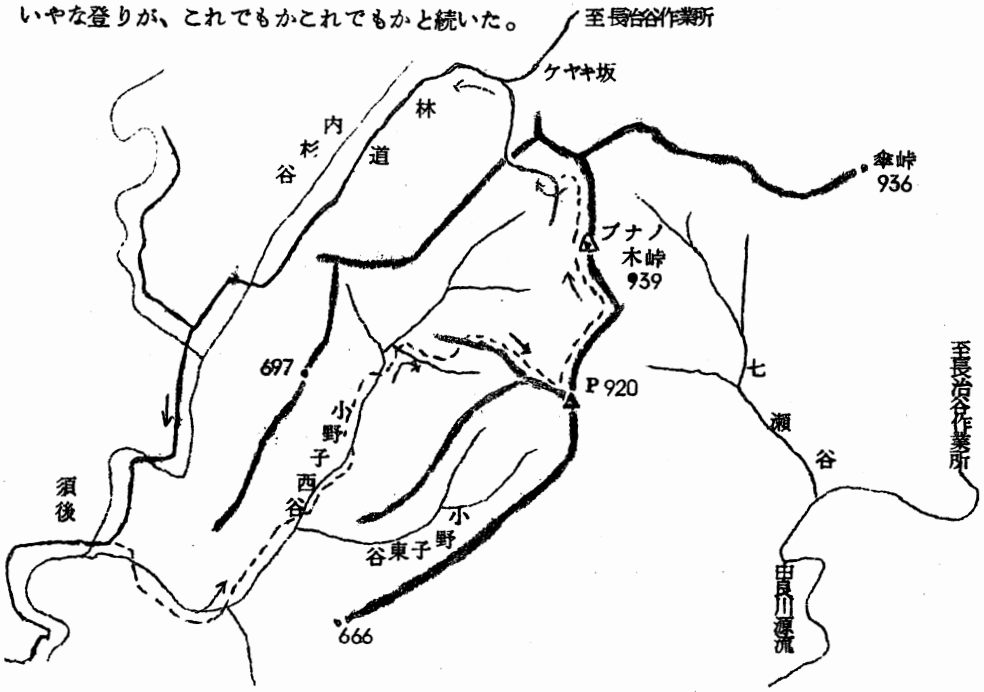
ブナノ木峠

田中忠久

予定を1時間早めて、5時に出発した。上島さんと牧さんを誘ってルート162を一路北上する。京大演習林の入口、須後に着いたのは7時半であった。登山準備を整え、入山許可を得て出発。民家のあるところで板の橋を渡り、小野子谷に入る。西谷、東谷の出合までわずかに道が残っていた。西谷に入っても、釣屋さんの踏跡らしいのが処々ついていた。かなり奥へ入ったところにずいぶん昔のものと思われる大きい炭焼釜跡があった。その釜跡を過ぎると、小滝の連続する廊下になる。右岸を2度ほど高捲いて廊下は終った。大きい石のゴーロ地帯を行くと右岸より谷が流入している。その出合を過ぎると、次は左岸より谷が流入する。私達はその谷へ入ったが、一筋早く入り過ぎたようだ。

しばらく谷筋を登って右岸の尾根に取り付いた。可憐なイワカガミや満開のシャクナゲが美しく、岩場のあるヤセ尾根の登攀と共に本日のハイライトであった。登りついたのは、ブナノ木峠より南800m地点の920mピークだった。

昼食後、再びブナノ木峠△939を目指す。標高差は20mだが、中間に鞍部があり80mの下り、100mの登りルートである。この80mの下りのルートハンテングがなかなかむつかしく、右へトラバース気味に下り、鞍部に達したときは思わずほっとした。鞍部からはすっきりしないいやな登りが、これでもかこれでもかと続いた。



展望のない平凡な頂上であった。「誰かゞこんな処に三角点標石を埋めるから、登らならんのやナ」と、思わず顔を見合わせて苦笑するも、気持はさわやかであった。三角点を囲みバンザイを三唱して登山は終った。ケヤキ坂から、さらにブナノ木峠直下まで林道が延びていたのだ。さかんにチェンソーの音が聞え、ブナノ木が切り倒されている。自然を守らなければならないと云うことは判っていながらも、林道を開き木を切り出さなければならないのは、それだけの事情があるのだろうが、自然林であるだけに惜しいと思う。

須後まで、林道の下りはきわめて快適であった。風薫る五月そのもので、新緑の山々は美しかった。

〔参　加　者〕　牧　定夫氏、上島和彦、田中忠久

〔コースタイム〕　5月11日　晴

宇治市小倉 5.00 ー須後 7.30 ～ 7.50 …小野子谷出合 8.10 …西谷・東谷出合 8.30 …
釜跡 9.20 …右岸より谷 10.00 …左岸より谷 10.05 ・谷入る 10.15 …右岸の尾根へ 10.35 …
P 920m 11.50 ～ 12.15 ・昼食…ブナノ木峠△ 939m 13.30 ～ 13.50 …林道 14.10 …
須後 16.00 ～ 16.20 ー小倉 19.00

例　会　報　告

例会No.	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記事
1077	牧　定夫 田中定勝 両名誉部員 還暦 お祝い登山 鈴鹿 竜ケ岳	4月25日	晴	本局 宮後　正樹	牧　定夫氏 田中定勝氏 近藤　薫氏 中村維源氏 山村敏郎氏	すばらしい天候に恵まれ、山すばらしく人またすばらしい最高に楽しい有意義な山行であった。京都東インター 8.00 …石榑峠 10.00 ～ 10.30 …竜ケ岳 11.40 ～ 12.45 …静岳 13.30 ～ 14.10 …竜ケ岳 15.00 ～ 15.20 …石榑峠 16.10 ～ 16.30 ー京都東 18.00　参加者　29名 詳細別稿報告
		三橋勉と家族4人、楠とし子、壬生そと、武田喜久郎と家族3人、上原昭二、山下周道、河村清、大槻雅弘と家族3人、上島和彦、田中忠久と家族3人				
1078	花房山と 小津権現山	5月1日 ～3日	晴 霧	本局 宮後　正樹	牧　定夫氏 武田喜久郎	予定通り花房山と小津権現山の2山を登った。詳細別稿報告
1079	北山 ブナノ木峠	5月11日	晴	横大路 田中　忠久	牧　定夫氏 上島　和彦	天候に恵まれ、また一つ良い登山が出来ました。詳細別稿報告

1080	三方岩岳と猿ケ馬場山	5月14日～15日	晴	本局 岡田 茂久 武田喜久郎	牧 定夫氏 鷲見 敏一 三橋 勉	きれいな空の色、山の緑、おいしい水と空気。そして山菜料理、おまけに残雪と充分楽しませてくれた。大自然に感謝したい山行でした。詳細次号報告
		辻 久雄、楠とし子、壬生そと、渡辺朋子				

部員動静

〔山 行〕

目的地	月日	天候	参加者	記事
愛宕山	5月2日	晴	鷲見 敏一と家族	連休の家族サービスとして、久しぶりに愛宕山に登った。途中で遇然、子供づれの宮本吉章君にあったので同行した。

〔異 動〕 本 局へ 大槻 雅 弘

雑報

4月集会報告

4月19日(月) 下鴨寮

出席者 名誉部員 近藤 薫氏、牧 定夫氏、山村敏郎氏、畑 照氏
本 局 宮後、武田、三橋
梅 津 吉田 横大路 田中 以上 9名

比良例会報告(他の例会は中止)のあと還暦登山の打合せを行った。

5月集会報告

5月19日(水) 下鴨寮

出席者 名誉部員 近藤 薫氏、牧 定夫氏、山村敏郎氏、伊藤潤治氏
本 局 武田、三橋
梅 津 吉田 醍 醐 北川 以上 8名

快晴にめぐまれて、めずらしく中止の例会が一つもなく、出席者の誰かが、それぞれの例会に参加していたこともあり、地図や写真をみながら山行の話がはずみ、部員の出席が少ないにもかゝわらず、名誉部員の方々も来てくださって楽しい集会であった。

山とスキーの映画会

6月22日(火) 18時 勤労会館

前売券(¥350)は各支部委員まで

京都最高のアクアラング用品専門店

- ウェットスーツ製造直売
- 潜水器具特別割引販売
- 現役プロダイバーと全日本潜水連盟公認指導員による安全確実な潜水指導（毎週木曜 夜7時ヨリ）

ダイビングプロショップ
エリート

スキューバプロ（米） 京都総代理店
スキューバアポロ 京都総発売元
AMFボイト（米） 京都総代理店
テクニサブ（伊） 京都総代理店

〒603 京都市北区堀川通北大路上ル東側 TEL 075-(492) 8450

PRO SHOP
山とスキー チロル
輸入品とオリジナルの店
AM12.00～PM9.00 三条御幸町下
定休日 月曜日 (221)6186

HORIKE KYOTO
まかせて下さい…ネ
山とスキー
のことなら…
☆在庫豊富にとり揃えています
☆山の道具は"ゼヒ"御相談下さい
☆友の会会員募集中(毎月 1000円)
山とスキーの専門店
ホリイケ
河原町店 上・河原町通丸太町東入
烏丸店 中・烏丸丸太町南下ル東側

昭和51年6月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内 京交山岳部

テニス用品
スキー用品
山用品

交通局の皆さん
とりあえず 京菱へ
満足のいくようにします
京菱運動具店
下・大宮松原上ル
TEL 801-1331

みんな知っている
古くからの厚生会特約店
野球用具 硬式・軟式専門店

ゴルフ初心者向クラブ沢山
あります 特に偶数クラブOK
以上の商品なんでもOK
購買証御利用下さい
月賦可 電話にて御注文下さい
KK西沢スポーツ
中・釜座御池下
(221) 5739

帆布・濾布
テント・シート
雨合羽
木村工業有限会社
京都市中京区ミブ車庫前
TEL801-5331(代)
名古屋営業所
名古屋市西区児玉町7-30
TEL 521-7541代~4

真の専門店として
好日山荘は前進しております
山とスキー用具の
ことなら御まかせ下さい
確信ある用具を
確信ある価格で・・・
好日山荘
河原町六角下ル東入ル
TEL 241-1731

HIKE & CAMP
この用具の事ならコニシが一番です!
御来店ありがとうございます
山とスキー
そして海のレジャースポーツショップ
コニシ
中・二条通河原町西 TEL 231-1202

山を美しく//

山のごみは

各自持って帰りましょう。